

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 19 日現在

機関番号：22302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520916

研究課題名(和文) 現代インドの贈与と異人歓待に関する人類学的調査研究：受容と排除の分水嶺からの考察

研究課題名(英文) Anthropological study on gift - giving and hospitality : what makes hijras of India deviants or the sacred ?

研究代表者

國弘 暁子 (Kunihiro, Akiko)

群馬県立女子大学・文学部・准教授

研究者番号：20434392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、贈与を通じて異人を歓待する習俗に見られる他者の受容と他者の排除の分水嶺を明らかにする人類学的フィールド調査を実施すると同時に、西洋出身の研究者が主導となり議論が重ねられてきた贈与論とホスピタリティ(歓待)に関する研究の系譜を批判的に検討することを目的とする。具体的には、西洋思想における贈与の観念を踏まえながら、現代のインド社会において異人として在り続ける現世放棄者ヒジュラへのダーナ(贈与)の慣習、巡礼地での喜捨の意義に関する考察を行い、異人を排除することなく享受する習俗としての歓待のあり方と、そこで創発する贈与の意義を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This is an Anthropological study on gift - giving and hospitality through the fieldwork with Hijras of India. Hijras are those who has been represented as sexual deviants or the 'Third gender' of non - western society in academic literatures. In this study, however, hijras are representatives of world renouncers of Indian society who have no obligations to perpetuate their family lines through marriage, moreover, who have the right to receive gifts from laypeople. Since hijras, particularly those living in Gujarat state, are allowed to present themselves as devotees of a Hindu Goddess in specific situations, laypeople have to accept hijras' presence and offer their hospitality to them through gift - giving with respect, which is called dana.

研究分野：文化人類学

キーワード：贈与 歓待 宗教 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

非西洋社会の「第三のジェンダー」と名付けられたインドのヒジュラは、これまでの先行研究では、その特殊性のみ強調される傾向にあったが、その特殊性が当該社会においてどのように解釈されているのかは言及されてこなかった。その点を明らかにするために、当該社会においてヒジュラが贈与される側にあることを追究する必要あると考えた。ヒジュラは特殊な存在として軽蔑される一方で、特殊な状況においては、人々から贈与を受け取る立場に置かれる。ヒジュラという異なる者との関係を、贈与を通じて一時的に築こうとする人々の言動に関する詳細な分析と、贈与の意義についての考察をすることは、よそ者を排除するのか、あるいは享受するかという分水嶺を明らかにすることになり、さらに、排除される民として常に問題視される移民をいかに享受しうるのであるのかという現代社会の問題解決への糸口を提供し得ると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、西洋のアカデミック手動で議論されてきた贈与論とホスピタリティ（歓待）に関する研究の系譜を批判的に検討すると同時に、贈与を通じて異人を歓待する習俗に見られる他者の受容と他者の排除の分水嶺を明らかにする人類学的フィールド調査を実施することを目的とする。具体的には、西洋思想における贈与の観念を踏まえながら、現代のインド社会において異人として在り続ける現世放棄者ヒジュラへのダーナ（贈与）の慣習、巡礼地での喜捨の意義に関する考察を行い、異人を排除することなく享受する習俗としての歓待のあり方と、そこで創発する贈与の意義を明らかにする。

3. 研究の方法

現地調査と文献研究の両方を同時に実施した。1) 現地調査：インド、グジャラート州において、人々による喜捨の実践を観察できる地方のヒンドゥー女神バフチャラー寺院を主たる調査地と選定し、そこにおいて喜捨をする側、される側に関する参与観察を実施した。また、日常レベルでなされる贈与の観念についても把握するために、グジャラート都市部の一般家庭において、異人ではないが、よそ者としての労働者を受け入れ、彼らに贈与する際のローカルな作法についての参与観察も行った。さらに、贈与や歓待に関する先行研究を数多く残してきた先駆者たちの出身地フランス社会での贈与の慣習を把握し、先行研究をよりよく理解するために、フランス北部ブルターニュ地方の一般家庭に住み込みながら、贈与がなされる二者間の関係性や贈与がなされる機会についての参与観察を実施した。2) 文献研究：人類学や哲学領域での贈与および歓待に関する文献の渉猟を行い、南アジア地域に限定することな

く、西洋社会を含めた通文化的な比較研究を目指すことに努めた。

4. 研究成果

1) 現地調査：インド北西部グジャラート州にあるバフチャラー女神の寺院は、同州内にある数多くの巡礼地と比べると、規模は小さく、特定の親族に帰属する者が親族成員の人生儀礼のために多く訪れるという特徴がある。女神寺院には、去勢儀礼を経た現世放棄者たちが、女神の衣装を身に纏って毎朝参集し、巡礼者から贈与を受け取る立場に自らを置いている。一般にヒジュラとして知られる現世放棄者のことだが、その者たちの家に寝泊りし、毎朝共に寺院に通うというフィールド調査を実施しながら、見知らぬ異人ヒジュラに対して巡礼者が一方的に贈与するその行為そのものに関する調査を行い、さらに、文献研究から得られた一方向の贈与に関する議論を参考にしながら、現地調査データの考察を行った。その成果は、次のように集約できる。巡礼者が贈与する対象の異人とは、巡礼地に毎朝集うヒジュラと言われる人々である。男性としての生を受けながらもサリーを纏い生きるヒジュラは、セックスとジェンダーが倒錯した異性装者と範疇化されることもあるが、そのヒジュラを異なる衣を纏う「異装者」と読み替え、異装の異質性（差異）がヒジュラに対する贈与を人々に誘発させることを指摘した。異質であるが故にヒジュラは蔑視もされるが、しかし、女神という全き他者の存在が喚起される場面においては、ヒジュラの異質性は女神の異質性と重なり合う。そして、人々は突き動かされるようにして、儀礼化された贈与を通じてヒジュラをもてなそうとする。その儀礼化された贈与とは、両者の間を循環することのない、一回限りの一方的なダーナとよばれる贈与である。ヒジュラを前にして必ずダーナ(to give)をするのは、生命誕生に係るケガレという異質性を一時的に背負う者である。その者たちは、異質性を持つという点においてヒジュラと同じ穴の貉といえ、ヒジュラを見下すどころか、むしろ敬意をもって、儀礼化されたダーナを行い、歓待するのである。生命誕生のケガレに関与するヒジュラの存在意義については、主に、グジャラートの都市部で活動するヒジュラとのフィールド調査から得たデータの考察結果であり、それについては次の論文にまとめてある。(A.Kunihiro, 2015, Anomic Bonds between Laypeople and Hijras in Gujarat, India, *Zinbun* 45pp.149-160)。また、女神寺院で観察可能なダーナの実践に関する考察については次の論文にまとめてあり、女神寺院関係者に対して抜刷りを配布した。(國弘暁子 2016, 'The Etiquette of Dāna, Unreciprocal Gift Giving, at the Temple of a Hindu Goddess,' 『群馬県立女子大学紀要』 37号、pp.55-63)

2)文献調査：南アジアのダーナについては、贈与者の罪を移行させる危険なものとして描かれる傾向がある。例えば J. Parry は、贈与者の罪が込められたギフトを危険と知りながらも、それを受け取ることでしか生きられない者たちの存在を強調した (Jonathan P. Parry, 1994, *Death in Banaras*: Cambridge University Press)。パリーの主張に反論する者の一人 M. Heim は、受贈者を下位に貶める点を批判して、ダーナには他者を尊重する意義があるのだと主張する (Maria Heim, 2007, *Dana as a Moral Category*, In *Indian Ethics*: Ashgate)。「異装者」のヒジュラと巡礼者との贈与関係においても、社会的な評判が一般に良くないヒジュラではあるが、ダーナを受けるその時点では同等あるいはそれ以上の地位としての待遇を受ける。与え手がヒジュラに敬意を表していることは、ダーナの行為に伴う身振り手振り、そして発話の意味を理解することで明らかである。逆に、与え手と受け手の関係を動的に捉えていないと、ダーナに見られる歓待としての意義が看過されてしまう。ヒジュラとの遭遇における束の間の歓待とは、古代ギリシャ社会にあったとされる異人への歓待(客人厚遇)に相通じるものがある。古代の異人歓待とは、見知らぬ他人との交わりを成立させる人間の技であり、それによって人々は身の危険を回避して利益を得ることを期待した(H.C.パイヤー著『異人歓待の歴史』ハーベスト社、1997年)。このような歓待のあり方は西洋社会では廃れてしまい、キリスト教が普及する古代ローマ末期になると、人々は見知らぬ他人や不特定多数の都市に対してではなく、既知としての下層の「貧者」に向けて、贖罪を目的とした贈与を行うようになったという(ピーター・ブラウン『貧者を愛する者』慶應義塾大学出版会、2012年)。受け手が底辺に固定されて、そこに向けてギフトが下降する、J. Parry が示したダーナの型は、キリスト教的慈善の観念にもとづいた貧者への施与と贖罪の意義をモデルとしていたのかもしれないと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

國弘暁子 2016, 'The Etiquette of Dāna, Unreciprocal Gift Giving, at the Temple of a Hindu Goddess,' 『群馬県立女子大学紀要』37号、pp.55-63

國弘暁子 2015, 'Anomic Bonds between Laypeople and Hijras in Gujarat, India,' *Zinbun* 45, pp.149-160

國弘暁子 2014年「排他と歓待の分水嶺：ヒンドゥー女神寺院におけるヒジュラへの贈与行為に関する考察」『群馬県立女子大学紀要』35号、pp.83-90

國弘暁子 2013, 'The Masculinity of Sons and the Preference for Sons: A Study on the *Hijras* of Gujarat, India.' 『群馬県立女子大学紀要』34号、pp.77-82

[学会発表](計8件)

國弘暁子 2016年「容赦(forgiveness)としてのギフト(gift)について考える～フィールドワークでの異邦者から参与者、そして当事者へのプロセスを通じて」『日本文化人類学会第50回研究大会』、南山大学、2016年5月28日

國弘暁子 2016年 “Forgiving an unexpected trespasser through gifts,” IUAES, Inter-Congress World Anthropologies and privatization of knowledge: engaging Anthropology in public, in Dubrovnik, Croatia, from 4th to 9th May 2016.

國弘暁子 2015年 “The Etiquette of Dāna, unreciprocal gift giving, at the temple of Hindu Goddess,” IUAES, Inter-congress, Thailand, 15-17 July, 2015.

國弘暁子 2014年「『第三のジェンダー』幻想と性のアンビヴァランス」『クィア学会第7回研究大会』中京大学、2014年12月7日

國弘暁子 2014年 “Begging and Blessing at the Sacred Place Under the Influence of Development Policies of Gujarat,” 『日本南アジア学会第27回全国大会』大東文化大学、2014年9月28日

國弘暁子 2014年 “Ambivalent Attitude towards Childbirth and Hijras of Gujarat, India,” IUAES, Inter-congress, Japan, May 15-18, 2014.

國弘暁子 2013年「排他と歓待の分水嶺：ヒ

ソドゥー女神寺院における贈与に関する調査研究『日本文化人類学会第47回研究大会』慶応大学、2013年6月9日

國弘暁子 2012年 “The Masculinity of Sons and the Preference for Sons: Studies on the *Hijras* of Gujarat, India,” Children and Youth in a Changing World, IUAES, India, Nov 26-30, 2012.

〔図書〕(計 1件)

國弘暁子 2014年「関係性のなかのシングル：現世を放棄したヒジユラたちがつくる親族の紐帯」椎野若菜(編)『シングルのつなく縁：シングルの人類学2』人文書院(総頁数 296)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

國弘 暁子 (KUNIHIRO, Akiko)
群馬県立女子大学・文学部・准教授
研究者番号：20434392

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：